日本共産党東京都議団の提案

誰でも文化・芸術を楽しめる東京に

アーティストを応援、都民が楽しめる環境・条件を広げます

気軽に文化・芸術を楽しむために……

▽都立美術館・博物館の大学生以下の料金は無料、学生でない若者も半額や無料にするなど、子ども、若者をはじめとする都民の美術館・博物館の入館料を引き下げるなど、鑑賞費補助事業を充実します。

▽サークルなどの都施設の利用料は低料金とし、自由に楽しく文化芸術活動を行なえるように応援します。

固定費補助など、文化芸術団体の活動を応援します

▽稽古場・活動スペース、事務所などの家賃や運営費、人件費などの固定費の支援します。

▽創作や発表の場所を提供する事業を拡大し、場所を増やします。都の施設の利用料は低料金とします。

▽中小の文化芸術団体の公演・展示会の助成を充実します。

▽落語・講談・浪曲・新内、能・狂言、歌舞伎などの伝統文化を大切にし、鑑賞の場を広げる、子どもが無料で楽しめるようにするなど支援を行います。

文化芸術団体の公演や社会包摂的な活動への支援を強めます

▽文化芸術団体の公演や社会包摂的（誰もが自分らしく生きることを社会が支援すること）な活動への支援の予算を拡充し、応募した団体が支援を受け受けられるようにします。

劇場確保と都立施設の充実……

▽東京文化会館の改修は文化芸術団体の意見をよく聞き、休館期間の調整、改修時期の類似団体との調整や工期の短縮を行うなど、劇場不足の改善を図ります。

▽写真美術館、現代美術館、江戸東京博物館、たてもの園の収蔵予算を増額します。多磨地域に文化施設を建設します。

東京民報 日本共産党東京都委員会（http://www.jcp-tokyo.net/）の見解を紹介します。
発行／東京民報社（港区芝 1-4-9 平和会館 5 階）1965 年 11 月 12 日第三種郵便物認可
2025 年 6 月号外

消費税廃止をめざし緊急に 5% に引き下げます。
インボイスは廃止にします。

野党第一党だからこそ出来る 日本共産党都議団の 文化芸術分野での豊かな実績

●「東京文化戦略2030」に“継続的に活動できる仕組みづくり”を位置づけさせる

文化芸術に携わる方々の意見を伺い、「事務所や活動スペース、倉庫などの固定費への支援が必要」と、都の支援を求めてきました。

こうしたなかで都は、「東京文化戦略2030」に「アーティストや芸術文化団体等が継続的に活動できる仕組みをつくる」ことを位置づけ、経営基盤や拠点などへの支援を掲げました。低廉に利用できるアトリエや舞台芸術の整備も始まっており、さらに充実を求めます。

●社会包摂的な活動への支援を求める

演劇の手法を活用したワークショップなど、参加者をエンパワーメント（個人の能力の向上）する取り組みが注目されています。こうした活動を支援する都の「社会支援助成」の予算は少なく、予算の充実を求めています。

●子ども・若者が文化芸術に触れることのできる東京へ

「もっと気軽に芸術に触れたい」という若者の声を聞き、2019 年に「若者の美術館料金引き下げ条例」を提案。一貫して子どもや若者への支援を繰り返し求めてきました。

こうした努力が実り、都は 2020 年から春休みに高校生の美術館料金を無料にする企画を開始、2024 年には日本共産党東京都議会議員団の質問に、無償化や引き下げの「検討を進める」と答弁するなど、前進しています。

●自由で対等な関係が重要――ハラスメント防止を求め、相談窓口を実現

ハラスメントがなく自由で対等に活動できることは、優れた作品づくりの前提です。関係者のご意見も聞き、ハラスメントやその背景にある契約や収入の問題に踏み込んで、都の支援を求めました。

都は2023年から「東京芸術文化相談サポートセンター」を設置。ハラスメント防止の取り組みが進んでいます。

フジテレビと元タレントによる性被害問題では、同社相談役の日枝久氏の東京都歴史文化財団理事長解任を申し入れ、人権侵害を許さない立場からの対応を求めました。

日本共産党の躍進で文化芸術が花開く東京へ